

# 会 派 視 察 報 告 書

報告者氏名 藤井 俊行

1 会派名

流山みらい

2 期 日

令和6年10月17日（木）～10月19日（土）

3 参加者

中村 彰男・西尾 段・うた 桜子・藤井 俊行

4 観察地及び調査事項

（1）佐賀県小城市

・小城市庁舎防災機能強化事業について

（2）長崎県長崎市

・長崎市まちぶらプロジェクトについて

・長崎市DMO事業について

（3）長崎県佐世保市

・私立保育園マミーの食育を取り入れた保育について

5 所管等

（1）佐賀県小城市

・小城市庁舎防災機能強化事業について

小城市は、佐賀県のほぼ中央にあり、佐賀平野の西端、県庁所在地・佐賀市に隣接している地域。佐賀市の西方約10キロ、車で20分の位置にあり、福岡市へ70キロ、長崎市へ100キロの距離にある。

面積は、95.81平方キロメートル

人口は、42,959人

災害時の庁舎は災害対策本部を置いて、消防・警察・自衛隊等との調整を行う重要な防災拠点となる。近年は、全国的にも大規模災害や停電が発生している。佐賀県でも令和元年と令和3年の記録的大雨で広い範囲で被害が発生した。

防災活動拠点の庁舎に太陽光パネルと蓄電池を導入して、災害時でも発電で

きる様にした。電力を送ることで防災体制が維持できるようになり、さらに、隣接する避難所の小城市三日月保健福祉センター「ゆめりあ」に発電した電力を送り、避難所の運営に役立てることにもなっている。

併せて、省エネ設備（空調、LED照明）を導入することで平常時でも電力使用を抑え、発電した電力を最大限に活かして商用電力を購入せずに自給自足の電力を賄うことで、大幅な脱炭素化と維持管理費の削減に取組んでいる。導入効果として、一年間を通じての電力確保（停電時を含む）がある。

流山市では、屋根貸事業で、多くの公共施設に民間事業者が設置している太陽光パネルが多い。災害時に利用できないというデメリットもある。今後は、自家消費による電気代の削減や災害時の電気利用を考えていく必要が大いにあると考える。

電力削減量 624,590 kWh／年

CO<sub>2</sub>排出削減量 361.64 t-CO<sub>2</sub>／年

事業年度 令和3年度

予 算 額 全体事業費 870,260千円

環境省補助金：二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を活用している。

（地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する避難施設等への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業） 297,995千円

事業費実績 8億6,240万円

【財源内訳】 国庫補助金 2億9,856万円

地方債 5億4,690万円

一般財源 1,694万円

（国の財政措置のある地方債を活用することにより市の実質負担は約28%となっている。）

使用している蓄電池が、リチウムイオン電池ではなく鉛電池ということが印象的であった。両方の蓄電池について調べてみると、鉛蓄電池の利点としては、リサイクルが可能で原料となる資源も豊富にあるため、安価に安定供給ができる点。逆にリチウム電池はリサイクル出来ない上に、原料資源が限られているため、価格も高めとなっている。

しかし、リチウムには軽く、質量比の容量が大きいという特性があり、スマートフォンなどのポータブル電子機器に適している。逆に鉛電池は重いため携行には向いていない。スマートシティ構想などでは大型で容量の大きい蓄電池が求められていて、たとえ大きくとも、より安価な鉛電池は最適と言えるとのこと。という内容であった。小城市で鉛蓄電池を採用している理由が理解できた。本市も太陽光発電と鉛蓄電池を併用できるように提案していきたいと感じた。

## （2）長崎県長崎市

- ・長崎市まちぶらプロジェクトについて
- ・長崎市DMO事業について

2日目は長崎市を視察した。

テーマは「まちぶらプロジェクト」と「長崎市DMO計画」の2点。

目的は歴史的な文化や伝統に培われた長崎市の「まちなか」の賑わい再生を図るため、5つのエリアの個性や魅力を顕在化させるために整備やソフト事業を市民などと連携しながら進める事。5つのエリアは以下の通り

1. 商店街、市場
2. 和のたたずまいと賑わい
3. 長崎文化の体感、発信
4. 中国文化、食
5. 異国情緒、国際交流

以上の5つのエリアを連続的に目的無く歩いてもらう事で、観光客だけでなく地元の人たちでも知らなかった気づきを、SNSで発信してもらう事で活性化を図っている。裏話として、坂道が多い特性から、地元の人達はすぐにバスやタクシー等に乗ってしまい歩かない傾向が強いため、地元の人にも地元の魅力を知ってもらえるような工夫をしたそうだ。陸の玄関口である長崎駅と、大型客船が停泊する海の玄関口である松が枝周辺も合わせて、人の流れを想定して「まちなか軸」を設定し、トイレを「多目的トイレあり」、「オストメイト対応トイレあり」を明記し、誰にでもわかりやすいトイレマップを作っている事にも工夫を感じた。

「花のある街づくり」として、エリアごとにあじさいやバラなど、基本となる花を設定し、その花の育て方講習会を行うなど、空間を彩りを創出したのも特徴的だ。期間は平成25年から西九州新幹線開業の令和4年度までの10年間を区切りとするものの、社会情勢の変化や地域との話し合いにより修正が必要になった場合は随時修正をしながら柔軟に計画を進めている所が特徴的である。

具体的には、最大50万円のスタートアップ補助金を作つて地域交流や町の活性化につながるイベントを支援したり、Teams等を使って市の職員と商店主や市民との交流を図る、地域ボランティアを目的として有給休暇を取れる「ボランティア休暇」の制度などを作つて、職員がまちに出やすい仕組み作りにも工夫が見えた。

続いて「長崎市DMO事業計画」についても視察を行つた。こちらは2021年から2025年までの5年計画で進めている。最大の特徴は個々の事業ではなく、長崎市の観光協会を丸ごとDMOとして委託している点だ。年間約3億円の予算で約20名の職員で運営している。うち1名は市から派遣されている。人

員的にはある程度適正配置と言える状態だそうだが、誘致受入が人手不足の状況。「暮らしのそばに、ほら世界」をキーワードに、市民にとって特に目新しくも無く、気づいても居ないような魅力やSNSでの発信方法を市民向けセミナーでお知らせして市民自ら観光地の情報発信をしてもらう事に成功している。こちらも市役所が行う別の事業とも同じ方針で統一して検討、実行されており机上の空論ではなく市民や事業者、観光客の3者にとって喜ばれる事業計画となっている。

また、インバウンドにも注力しており欧米のみならず、オーストラリアもターゲットにしているのが特徴的だ。

先に視察した「まちぶらプロジェクト」と同様に、観光客のみならず、地元の市民や事業者にとっても長崎市で生活や事業を営むことの地域的価値と平和都市長崎として未来に向けメッセージを発信すると言う社会的価値の視点からブランディングを行っている。

長崎市と流山市を比べた場合、観光地としての規模や価値は大きな違いがあると言わざるを得ないが、取り組み自体は真似できるところも少なくない。流山市にも活かせるように取り組んでいく。

### (3) 長崎県佐世保市

保育と食育について「いただきます2 ここは、発酵の楽園」という映画でも紹介されている私立保育園マミーを視察した。

私立保育園マミーは、長崎県食育推進活動において長年の功績が認められ、県知事賞表彰を受けている。

#### 食育の内容

##### 1 畑作り

園児と作る畑作りには、吉田俊道先生が発案した、微生物（菌ちゃん）によっていのちを循環させる農法、化学肥料や農薬を一切使わない「菌ちゃん農法」が採用されている。

まず園児と一緒に発酵させた生ゴミを畑に混ぜて土づくりから始める。畠に黒マルチをかけることで、土着菌と一緒にになって生ゴミが発酵し、マグネシウムやカルシウムなど土中のミネラルとの相互作用で様々な有効成分が作り出される。そのように栽培された野菜は、とても栄養価が高いので、虫も少量でお腹一杯になるそうだ。そもそも虫がいっぱいいくのは弱っている植物の証拠だそうだ。

##### 2 調理法

味噌は子ども達と一緒に仕込んで作る。また、調味料やふりかけも自家製

で作っている。給食の調理方法は「ニンジン・じゃがいもなどは皮ごと、成長点（ニンジンなどの葉の根元の部分）ごと入れる」「煮干しを頭・内臓もそのまままるごと入れる」など、栄養素、特にファイトケミカルの成分が余さず取れるように気をつけている。実際に皮なしと皮ありでのミネラル量の違いの調査もされ、新聞にも掲載された。



### 3 子ども達の病欠状況をデータとして記録

そのような給食を続けた結果、風邪やインフルエンザでお休みする子どもが激減し、精神的にも落ち着いた様子になってきたとのことで、それをしつかり記録され、研究データとして残している。



衣川前園長先生は、研究熱心な方で、調味料も自分で作ったものとそうでないものを比べられるよう用意されていた。

佐世保市では米軍で夜勤のお仕事をされている家庭も多く、その子どもを預かる24時間保育をされていたことなど昔の苦労話を聞きながら、実

際に私たちも保育園のお食事をいただいた。



衣川前園長先生が用意された園児の給食内容を試



私立保育園マミーが紹介されて  
いる本を見せる衣川前園長先生



畑を紹介する衣川前園長先生

以上、子ども達の心と身体の健康の土台を作る「保育からの食育」に関して、一生をかけて研究している衣川前園長先生の知識を子育ての街流山市でも生かせるよう取り組んでいく。